神奈川県立生命の星・地球博物館

友の会通信

Vol. 13, No.1 , 通巻64号 2009. 6.15発行

目　次

会長・館長あいさつ……1
総会報告…… 2
活動報告…… 3〜5
情報クリップ…… 5
わたしの選ぶこの一冊… 6
行事案内…… 7・8

友の会の展開？

会長　佐藤昭男

第13回総会を終えて、新たな一年が始まりました。今年度も変わらず会長を務めることになりましたので、会員の皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

昨年は友の会創設12年でしたので節目になる13年目には友の会の新たな展開を示す必要を感じていましたので、友の会通信の年頭挨拶で“新たな十二支(体制／運営)を示す”ことを約束しました。そして、一年かけて友の会の運営について、役員会や博物館との連絡会で検討しました。

友の会運営に携わる中で力を注いだ一つは“友の会の自立”です。博物館など公共施設が指定管理者の制度導入や費用対効果、採算の取れる運営などと言われるようになり、友の会も同じように会費とボランティアの力で賄える組織を描き、法人化などを視野に入れて自立の在り方を模索しました。或時は淡路島まで行ったり、濱田元館長のお話を宿泊で研修したりして、友の会の運営のマニュアルまで作りましたがボランティアの限界があるようです。もう一つは“博物館との連携”です。友の会の規約にあるように“博物館活動を支援する”ことは、博物館との連携が重要です。博物館の置かれている状況に応えるために、友の会通信(私の応援メッセージなど)や博物館との連絡会で博物館運営について提案してきましたが、子ども自然科学ひろばやミューズ・フェスタなど博物館の要請に応えるだけです。“友の会の自立”と“博物館との連携”は“博物館の在り方”に頼らずには成せることは出来ないと12年間の経験から感じています。

博物館との連携ではじめた「館外サロン・ド・小田原」、そして、図書出版「フィールドワークの達人」が今年の夏頃に完成しそうです。これを機に“博物館との連携”が深まることを期待したいところです。任期一年の最後は新たに加わった役員と一緒に規約の“博物館を広く活用し、会員相互の交流を図る”に力を注ぎ、“博物館の在り方”を見守って行きたいと考えています。

博物館の課題と友の会への期待

館長　斎藤靖二

新年度に入って、生命の星・地球博物館から幾人かのメンバーが転出しましたが、新しいメンバーを迎えて、博物館活動は初心のままに続いております。職員一同、誠心努力いたしますので、友の会の皆様には、これからも館を支える大きな力になっていただきたく、変わらぬご協力をお願い申し上げます。

昨今の社会事情を反映して、博物館も決して恵まれている状況にはありませんが、博物館としてあり続けるために、全員がそれぞれの持ち場で努力していることをご理解ください。大事な博物館活動のひとつが、資料収集と調査研究および図書充実を継続することですが、当然のことながら、それにともなって資料庫と書庫は次第に満杯へと向かっていきます。どこの博物館でも、近い将来における資料庫と書庫の拡充が問題となっていて、当館も例外ではありません。このことはもっとも重要な課題といってよいでしょう。

常設展示の更新も、もうひとつの課題で、十年以上にわたる研究の進展を反映させる必要があります。ジャンボブックや共生展示で一部更新がなされているとはいえ、大がかりな展示更新計画はいまだ望めない状況にあります。せめて近年おもしろくなった初期生命や人類進化の研究を展示に追加して、生命の星・地球博物館の名にふさわしい常設展示を完成させたいものです。昨年の特別展は新しい箱根火山像についてでしたが、今年は樹洞の生き物たちを紹介しますので、どうぞご期待ください。

また、博物館活動で外に発信するものに出版物の刊行があります。それは労力のかかる仕事で簡単なことではありませんが、友の会と共同でつくりあげていきたいと考えています。皆さんのご支援を期待しております。

平成21年度友の会総会報告

4月5日日曜日、ミュージアムシアターにおいて、神奈川県立生命の星・地球博物館友の会第13回総会が13時30分から約1時間にわたり45名の会員と博物館からの参加を得て開かれました。

会計担当の臼井さんの司会進行により総会は進められ、佐藤会長の挨拶、博物館代表として鈴木副館長の挨拶と続き、議長に幹事の土屋さんを選出し議事に入りました。議事は平成20年度の諸々の事業報告を佐藤会長・関口副会長、平成20年度の決算報告を廣井会計担当からあり、監査報告は長山会計監査よりいただきました。

今年度は規約改正の提案を行い、役員の任期を2年から1年としました。これは役員の流動性を高めるためと、多くの方に参加していただきたいとの趣旨説明が関口副会長よりありました。

次は役員の改選です。今年度の退任は出川さん、村石さんで、新たにお迎えしたのは、飯島さん、小久保さん、下田さんの諸氏です。出川さん、村石さん、お疲れさまでした。

最後に役員・組織体制の紹介を佐藤会長から、平成21年度事業計画を関口副会長から、平成21年度予算を廣井会計担当から提案がありました。

以上、すべてに議事は滞りなく承認され、総会は無事終了しました。総会終了後はイベント、フィールドワークの達人出版プレイベント、公開講座「フィールドワークの愉しみ」を開催いたしました。

（関口康弘）

「フィールドワークの達人」出版プレイベント
公開講座「フィールドワークの愉しみ」

総会終了後、ミュージアムシアターにてひき続き、公開講座「フィールドワークの愉しみ」が開催されました。このイベントは今年初夏に出版予定の『フィールドワークの達人』のプレイベントとして実施されました。

出演いただいた「達人」は出演順に、大島学芸員（古生物担当）、広谷学芸員（動物担当）、瀬能学芸員（魚類担当）、勝山学芸員（植物担当）、高桑学芸員（昆虫担当）、田口学芸員（古生物担当）の面々です。

前半はそれぞれ持ち時間10分でプレゼンを行っていただきました。6人の学芸員がフィールドスタイルで出演し服装や道具の紹介、実際に資料を採集する際の注意すべき点や、模擬演技をしていただきました。博物館や普段の観察会での学芸員とは違う、「フィールドワークの達人」としての姿を存分に知ることができました。

後半ではこのイベントに参加された会員や一般の方々から、休憩時に回収した質問シートに達人たちにそれぞれ答えていただく形式で進められました。「クマやサルなど、動物に突然出会った時の対処法は？」「丹沢で大量発生しているヤマビルの対処法は？」「ウエットスーツの上手なぬぎかたは？」「蜂から身を守る方法は？」など具体的な質問や、「フィールドに出るにあたり体を鍛えたり、何か特別な訓練をしているか？」「調査にあたり公的機関等の許可は必要か？」という事前準備の質問、「最もお気に入りのフィールドはどこ？」という達人たちにとって秘密にしておきたい質問もありましたが、出演いただいた学芸員の皆さんからは丁寧な回答がありました。

会員45名、一般の方30名、合計75名の参加がありました。参加者はとても満足されたようで、出版の予告イベントとしてはその期待感を大いに持っていただけたようでした。ぜひとも今後出版される『フィールドワークの達人』に注目をしていただき、本ができあがったあかつきにはぜひお手にとってご覧いただければと存じます。

最後に、ご協力いただいた学芸員さん、参加いただいた皆さんありがとうございました。御礼申し上げます。

（関口康弘）

達人たちの意気込みと装備は異彩を放っています

◇活◇動◇報◇告◇

早春の房総地学巡検

2009年2月7・8日(土・日)/房総半島南部一帯/大人：25名/講師：蛯子貞二(友の会)、石浜佐栄子学芸員

千葉県といえば広い海岸、落花生、ヨード、そして丘陵と呼ぶのがふさわしい穏やかな地形に似合った菜の花・・・というイメージを抱く人が多いのではないでしょうか。

しかし郊外道路から見える崖は近づいて見ればグランドキャニオンそっくりの美しい層理面の露頭であったり、白くてきれいと思って近づいた海岸は地層がグサグサに折り重なった付加体であったり、またあたかも地層の中に入ってしまったかの様な地下壕もある等、ディープな地学的魅力あふれる県（場所）であることを改めて知りました。

今回一晩を過ごした宿舎一帯は、約5000万年前に海底噴出した嶺岡層群の枕状溶岩でした。頭5個位の赤黒い枕の積み重なりで、放射状の節理や流れた方向の確認もできました。とにかく「見事」な露頭でした。また崖上から眺めた鴨川漁港には、小さな物を含めると20個程の島が点在しています。狭い範囲の中でも変成岩や玄武岩などの異なる岩石から出来ており、年代も嶺岡層群より若い物もあるそうです。この地帯は今も隆起を続けているそうなので、未だ見えていないあの島々のさらに下を見てみたいような気がしました。

今回色々な場所の案内人を務めて下さった蛯子さんや石浜さん、また友の会の方々に伺ったお話は地学の勉強のみならず、“深く学ぶ”ということについて考える機会をも頂いた観察会でした。感謝をしております。またチャンスがあれば是非参加したいと思います。　（平方あゆみ）

房総半島には地学関連の見所がたくさん在ります。皆さまも是非一度訪ねて見て下さい。

（中村良）

“斜交葉理”が特徴的な上総層群市借層の露頭

“枕状溶岩”の枕で昼寝？？

海食台に露出するシロウリガイの化石

第85回サロン・ド・小田原
「地球とつきあってきた人たち」

2009年2月13日(金)／小田原駅ビル　ラスカU-meサロン／64名／講師：斎藤靖二館長

今回のサロン・ド・小田原は新しい企画です。博物館をとび出して小田原駅の駅ビル、小田原ラスカの「U-meサロン」を会場としました。博物館館外で初めての開催となりましたが、集まった人数は64名。常連の皆さん以外に、小中学生をはじめ初めて参加された方もおられました。

話題提供は、生命の星・地球博物館館長の斎藤靖二さん。50分程度の話題提供につづき、テーブルに分かれての15分程のグループ歓談による質問検討。そして全体での質問・回答。という講演を聴くだけでなく参加者が一言でも発言できる場面を意識した3部構成としました。結果は、少々タイトスジュールとなり質問・回答の時間が短くなってしまいましたが、それ以上にグループ歓談が活発に繰り広げられていたことが印象に残りました。小田原駅ビルでの開催とあり、初めて参加される方もサロン・ド・小田原を大いに楽しまれたようです。

今回は、テーブルごとのグループ歓談のまとめ役（リーダー）を友の会のスタッフが行いました。急なお願いだったのにもかかわらず快く対応して下さった話題提供の斎藤館長、スタッフの皆さんに御礼申し上げます。また、会場にお集まり下さった参加者の皆さん、そして会場を提供して下さった小田原ラスカの皆さんに感謝申し上げます。「サロン・ド・小田原in　ラスカ」ありがとうございました。

（関口康弘）

ほとんどの席がうまった会場　ラスカ U-me サロン

第43回植物観察会「田園の春を楽しむ」

2009年3月8日(日)/秦野市柳川地区/32名/講師：勝山輝男学芸員

曇りのち雨の天気予報、変わり易い三月の天気に心配しながら参加した観察会でしたが、幸い暖かな日差しに恵まれ、久しぶりに自然の中で気持の良い時間を過ごす事ができました。普段は何気なく見逃している道端の草花にそれぞれ深い知恵があることを知り、自然の賢さ、美しさ、逞しさに改めて感動を覚えました。ロゼットは、寒い冬に地面からの熱と太陽光の両方を効率良く得るための仕組みで一枚毎の葉が重ならない様になっているとか、雄花と雌花の開花時期をずらして自己交配を防ぐなど、他にもいろいろ初めて見知ることばかりで植物も生きるために工夫し、努力している様子に敬服しました。また、それを解説して下さる参加者の方々の博学な事にも驚かされました。親切に声をかけて頂き、丁寧に教えて下さって大変感謝しております。

懐かしい土や草のにおい、鳥の声、風の音、そこにある人間によって整えられた田園風景、フィールドワーク初心者の私にとって、優しい自然への入口でした。今回春の訪れを感じ、日常に季節を振り返る喜びを見出す経験ができ、これからの生活に活かしてゆけたらと思います。　（大倉幸子）

たばこ乾燥倉の前で秦野煙草の歴史を聞く

こんな道祖神があちこちに

柳川地区の美しい里山を観察する

第44回植物観察会「高麗山の春を歩く」

2009年4月10日(金)/大磯丘陵高麗山/35名/講師：勝山輝男学芸員

集合場所の高来神社から、高麗山の東面、北面の順に外周コースを辿り、けやき広場で昼食の後、女坂を下りました。高麗山に来たことはあっても、外周コースははじめてという人が多く、植物種の多さに感激しきりでした。

今回の主テーマ「林床の植物」について、配布された資料を片手に、植物グループスタッフの丁寧な説明と励ましをいただきながら、花や葉の観察を楽しみました。ユリワサビの花式図を見ながらのルーペ観察ではアブラナ科特有の4強雄しべ（6本あるうち4本が長い）について学び、ニリンソウの群落では、白い花びら状萼片の数のばらつき、雌しべの数などこれまで見過ごしていた細部まで知ることができました。

樹木についても、勝山学芸員からケンポナシの芽は葉痕の1つおきに付くことが多いこと、モクレイシの特異な分布（九州にあるが、他では伊豆半島、伊豆諸島と大磯丘陵だけ）、芽出しの色の違いによるタブとホソバタブの見分け方など多くのことを教えていただきました。

昼食時の質問コーナーでは、この山に多いウラシマソウと周辺地域に多いミミガタテンナンショウの分布に関する意見交換を興味深く聞きました。
また，繁茂するトキワツユクサ、林内に移植されたヒメリュウキンカ、シラユキゲシなど外部からの侵入種に対する懸念についても、参加者一同問題意識を共有したようでした。　（山口太郎）

ケンポナシの冬芽を説明する講師

アブラナ科の白い花ユリワサビ

満開のニリンソウ群落

※4月25日実施予定の講座「三浦半島『葉山芝崎』で幻の付加体観察」は荒天のため中止となりました。

＜情報クリップ＞

会員数　463名　4月30日現在
（正会員461名、賛助会員2名）

平成21年4月　**博物館人事異動**

＜副館長＞

転入：鈴木信太郎	転出：白畑　裕史

＜管理課＞

転入：瀬戸　昇	転出：田賀　茂
転入：谷　康雄	転出：野木　繁佳
転入：黒田不二穂	転出：西尾　雄三
再任用：内田　秀樹	退職：尾崎　道夫
再任用：飯田　幸次	退職：柴田美奈子

＜企画情報部＞

転入：石井　正純	退職：富田　憲一
転入：秋元　香織	退職：新井　一政
再任用：新井　一政	退職：奥野花代子
転入：大澤　澄子	転出：本田　美穂
転入：尾越佐緒里	転出：篠崎　淑子
異動：田口　公則（前　学芸部）	転出：工藤　敦子

＜学芸部＞

異動：広谷　浩子（前　情報資料課）

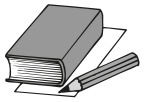
＜学習指導員＞

新任：神部　正雄	退職：稲井　慎治
新任：佐藤　正行	退職：山口　清

＜学習指導員＞

新任：山崎　省吾	退職：石井　裕
新任：小野澤英雄	退職：田中　淑生

わたしの選ぶ“この一冊”



学芸員　苅部　治紀

本との出会いは、時にその人の人生を変えることもあるほど大切なものだと言いますが、小さいころから本が大好きだった僕の印象に残る本はものすごく沢山あって、影響を受けた本というのもなかなか絞れません。昆虫好き（自分たちのことを「虫屋（むしや）」と呼ぶ）の面からは、石田昇三氏らによる、山渓カラーガイド『日本のトンボ』とか『原色日本昆虫生態図鑑Ⅱトンボ編』などは、中学・高校生のころの自分のバイブルのような存在でした。まさに擦り切れるほど読んだものです。当時は、まさか、自分がその後沖縄などに普通に行くようになるとは思いませんでしたし、それどころか海外に調査に行って、バンバン新種を発見して、研究して、自分で論文を書くなんていうことは、その頃は、夢のまた夢でした。色彩も魅力的な沖縄のトンボの写真や生態を読んで、いろいろと想像したころを懐かしく思い出します。

大学生のころから「はまった」カミキリムシについては、当館学芸員の高桑さんが編集された、築地書館『カミキリムシの魅力』につきますね。この本では、いろいろと知識がないと楽しめない、ちょっと小難しい話もあるのですが、先人たちがその頃の珍品をいかに考えながら落としていったのかを書いたパートが、僕にはたまらなく刺激的でした。今では採集地の情報があふれていて、かなり多くの人が「いるとわかっている場所で、いるとわかっている種類を採って楽しむ」ような、いわゆる釣堀採集というものが幅を利かせるようになってしまっています。本来の自然探求の楽しみというのは、自分でいろいろな想像を働かせて、幻とされる虫の生態を解明していったり、分布の様相などを仮説を考えながら調査したり、まあ要するに自分で調査目的を設定して、調査を展開していくことが、とてもエキサイティングで面白いもんだと思うのです。もちろん、こういう調査は「はずれが当たり前」で、なかなか思ったとおりにはいきませんが、そこがまた面白い。たまに「当たり！」の大発見があると、本当にうれしいものです。なんでもお手軽になっているこの世の中、虫でさえも、他人の追体験で満足しているお手軽な人たちは、こういう本当の興奮を知らずにいるのかと思うと、「気の毒だなー」、と思ってしまうのです。

そういうフロンティア精神に富んだ人にお勧めなのは、当時のまさに未開の地だった東南アジアの昆虫調査〈実際には専門分野は虫だけではなく、まさに博物学者だった人ですが〉の先鞭をつけた一人である、アルフレッド・ウオーレス著『マレー諸島』です。ウオーレスは、ダーウインとともに進化論の提唱者の一人ですが、彼の名前は詳しい人にしか知られていないでしょう。ものすごく分厚い本ですが、なにしろ東南アジアの当時の雰囲気を余すところ無く伝えてくれますし、初めて調査に入った場所で、自分が次々に新知見を発見していくくだりなど、その後自分で何度も体験しましたが、「エー、こんなヤツがおるとは！」という衝撃、すごく共感できるのです。もう自分もすっかりオッサンになり、いろいろと経験を積んでしまって感性も擦り切れてきて、なかなか新鮮な感動というのはなくなってしまいました。海外で目的のカミキリを発見しても、トンボの新種を見つけても「あ、いた」というような感じになりさがっていますが、カゼで寝込んだときなど（ちょっと重いけど、腕力を鍛えるにもいいかも？）、この本を読み返しては力をもらいます。いつまでも今のようには動けないでしょうけど、いくつになっても、易きに流れず、未知の場所を尋ねるチャレンジ調査を続けて行きたいと思います。

行事案内

◆夏休み昆虫探検隊

今年は山梨県で合宿を行います。
学芸員の先生方と昆虫採集を楽しみませんか？

日　時：7月31日（金）8：00～
　　8月 1日（土）18：00（予定）
場　所：山梨県南巨摩郡身延町～富士山周辺
講　師：苅部治紀学芸員・高桑正敏学芸員
集　合：小田急線開成駅西口ロータリー
対　象：会員小学4年生から大人／15名（抽選）
　　（小学生は保護者同伴）
参加費：20,000円位／人
締切り：7月9日(木)　必着
連絡先：渡邊　0　　―　　―
特　記：参加費にはバス代、宿泊費、食費3食が含まれます。詳しくはチラシで。

◆子ども自然科学ひろば「いろいろ体験」

実習実験室内でいろいろな体験講座を行います。当日希望の講座にご参加ください。
「プランクトン観察」：小田部家邦プランクトン先生の指導で観察します。家の近くの池や小川の水を採ってきて観察しよう。
「変形菌を探そう」：落ち葉のプールの中から変形菌を探して顕微鏡観察。標本を作ったり、スライムを作って遊びます。
他にも面白い講座を企画中です。お楽しみに。

日　時：8月8日（土）
実施時間：午前10：00～12：00
　　午後13：00～15：00
　　1講座1時間で各4回予定
場　所：3階実習実験室
対　象：子どもとその保護者　オープン
参加費：1講座300円～500円／人（保険料含む）
申込方法：当日、実習実験室内受付で行います。
　　（事前申込み無し）

◆子ども自然科学ひろば「早川の魚類観察会」

本年度夏の自然倶楽部「水餓鬼を育てる」観察会は、川の魚を採集、魚の生態について学びます。

学芸員の瀬能先生と川に入り魚採りしませんか？魚大好きな子どもたちの参加をお待ちします。

日　時：8月8日（土）10：00～13：00(少雨決行)
集合場所：　博物館入口前
講　師：瀬能宏学芸員
対　象：子ども、大人（小学生は保護者同伴）オープン
参加費：500円（保険代・資料代）
持ち物：タモ、箱メガネ、ビニール、バケツ、タオル、運動靴(濡れても良い)、着替え、帽子、日焼け止め、水筒、お弁当　など
締切り：7月24日（金）必着
連絡先：川﨑　0

◆子ども自然科学ひろば「バックヤード探検隊」

～博物館の学芸員ってこんな仕事をしています～

日　時：　8月9日（日）
実地時間：1回目　10：30　～　11：40
　　2回目　13：30　～　14：40
場　所：博物館内
内　容：ふだんは未公開の収蔵庫や、博物館で働く学芸員の仕事の内容、仕事場を知りましょう。
対　象：小学生以上　オープン
　　（小学3年生以下は保護者の方同伴です）
定　員：各回10名
　　（同伴の保護者の方も含んだ人数です）
参加費：100円／人
締切り：7月26日必着
注　意：見学場所によっては匂いがきついところがあります。

◆「泊って楽しむ栂池自然園」

中部山岳国立公園の一角をなす栂池自然園は高度1900mに位置した広大な湿原です。初めての宿泊観察会は貸切りバスで行きます。

日　時：8月28日(金)・29日(土)
場　所：栂池自然園
（ゴンドラ・リフトでのぼり、園内を観察）
宿　泊：栂池山荘（長野県北安曇野郡小谷村）

出　発：二宮駅・秦野駅　　7時頃
帰　着：二宮駅・秦野駅　20時頃
対　象：大人　30名（抽選）
講　師：勝山輝男学芸員
参加費：21,500円程度／人
締切り：7月7日(火)　必着
連絡先：中山　　0　　3　　0
特　記：往復はがきに必要事項(同封のチラシ参照)
　　をすべて記入してお申込み下さい。

◆植物観察会

「湯坂路の秋草ウオッチング」

＝探してみませんか、湯坂路の「ｍｙ秋の七草」＝

日　時：10月6日（火）8：15～15：00頃
場　所：箱根・湯坂路　（雨天中止）
講　師：勝山輝男 学芸員
集　合：箱根登山鉄道・箱根湯本駅
　　タクシー乗り場付近
対　象：大人　25名　（抽選）
参加費：1,200円／人（往路タクシー代を含む）
持ち物：ルーペ、筆記用具など
締切り：9月21日（月）必着
連絡先：金子　0

◆「金時山から考える新箱根火山形成モデル」

金時山登山道に観られる地層と山頂からの展望から、新箱根火山形成史のモデル地を中心に紹介します。
（上記講座名は「2009(平成21)年度友の会行事一覧」の『新箱根火山形成モデル地を巡検する』を変更しています）

日　時：10月18日（日）
場　所：「金時神社」～「金時山々頂」
　　～南足柄「地蔵堂」
講　師：山下浩之 学芸員
集合場所・時間：仙石原「金時神社入口」10：00
解散場所・時間：南足柄「地蔵堂」16：00頃
対　象：大人・子どもとその保護者40名(抽選)
参加費：150円／人
締切り：10月6日(火)必着
注意事項:「金時神社」～「金時山々頂」～南足柄
　　「地蔵堂」までを歩く健脚者向けのコースです
連絡先：中村(良)　　4　　4

■参加申し込み

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。ファックスや電子メールでは受け付けませんので、ご注意ください。
行事名／開催日／参加者全員の氏名･年令（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項
ご不明な点は、友の会事務局へお問合せください。

■受付

返信はがきが開催日の1週間前ごろにお手元に届きます。当日ご持参ください。

■あて先

神奈川県立生命の星・地球博物館友の会事務局
〒250-0031　神奈川県小田原市入生田499

注意！

★参加費は1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。
★オープンの行事は会員外の方も参加できます。
★小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。
★チラシの発行されない行事もありますので、直接＜連絡先＞へお問い合わせください。
★持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

「友の会通信65号」は、2009年9月15日発行予定です。

発行　神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.13, No.1, 通巻64号　2009.6.15発行
編集　友の会広報部
〒250‐0031　神奈川県小田原市入生田499
TEL:0465‐21‐1515　FAX:0465‐23‐8846